

## 令和5年度あわじ環境未来島構想推進協議会総会議事概要

- 1 日 時 : 令和5年5月23日(火) 14時30分～16時40分  
 2 場 所 : 淡路夢舞台国際会議場 メインホール  
 3 構成団体数 : 113 団体  
 4 出席団体数 : 50 団体 (委任状出席 36 団体)  
 5 出席者 : 別紙のとおり

発言者	内容
石村 会長 ((一財)淡路島く にうみ協会)	<p><b>1 開会</b>                      (開会あいさつ)</p> <p>今年のゴールデンウィークは観光地の人出が増加し、淡路島にも多くの観光客が来て賑わいを見せていた。5月8日からは新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類に引き下げになり、コロナ対応も大きな転換点を迎えた。</p> <p>未来島構想においては、エネルギー、農と食、暮らしのそれぞれの分野で構成団体の皆様の様々な取り組みが目に見える形で進んでいる。</p> <p>2025年大阪・関西万博開幕まで2年を切り、「あわじ環境未来島構想」での取り組みを内外に発信することで、より一層、淡路島が注目される。なお、本日は構想の一層の推進に向けた意見交換も行い、さらなる淡路島の活性化につなげていきたい。</p>
富永 交流渦潮課班長	<p>(来賓、アドバイザー紹介)                      (本日の協議会の出席状況について、事務局から説明)</p>
山内 交流渦潮室長	<p>構成団体数 113 団体中、                      出席 50 団体 (オンライン参加を含む)、                      委任状出席 36 団体</p> <p>規約第11条に定める総会開催要件の全構成団体1/2以上の出席を満たしており、本総会は有効に成立している旨、報告</p>
山内 交流渦潮室長	<p><b>2 議事</b></p> <p>(1) 規約の改正について                      (2) 企画委員会委員の指名について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1、資料2のとおり説明、報告</li> <li>資料1について異議なしにて承認された。</li> </ul>

<p>山内 交流渦潮室長</p>	<p>(3) あわじ環境未来島構想の推進状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料 3-1, 2, 3 のとおり説明</li> </ul>
<p>坂上 広域調整課副課長</p>	<p>(4) 総合特別区域事後評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料 4-1, 2, 3 のとおり説明</li> </ul>
<p>栗山 研究員 ( (公財) 地球環境 戦略研究機関)</p>	<p>(5) 活動状況報告等</p> <p>① 「「あわじ環境未来島構想」に基づく淡路島のカーボンニュートラルに向けたロードマップ策定」</p> <p>本協議会を主体とし、シミュレーションや意見交換を重ねながらカーボンニュートラル（再生可能エネルギーで暮らせる社会の実現）達成に向けたロードマップを作成するプロジェクトの提案。今後、協議会事務局（淡路県民局）を通してロードマップ策定を進めていく。</p>
<p>田中 代表取締役 ( (株) パソナ農援 隊)</p>	<p>② 「パソナ農援隊の取り組み (Awaji Nature Lab &amp; Resort など)」</p> <p>農業分野の雇用の創造と人材の育成を通じて農業の振興と地方の活性化に貢献するべく、全国で活動している。淡路島では、2008 年から「あわじチャレンジファーム」という取り組みを行ってきた。現在は、「Awaji Nature Lab &amp; Resort」として、副業・兼業、暮らしに農を取り入れたいという方々など、農に携わる人を増やす取り組みを併せて行っている。こうした取り組みを通じて、多くの方々に淡路島に来ていただき、島の魅力を感じて移住者等の増加につながるよう取り組んでいる。</p>
<p>相野 研究科長 ( 吉備国際大学大 学院地域創成農学 研究科)</p>	<p>③ 「吉備国際大学農学部との取り組みと海洋水産生物学科の新設」</p> <p>南あわじ市に農学部、大学院地域創生農学研究科を設置。令和 5 年度から海洋水産生物学科を新設。「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する」ことを理念としている。兵庫県外からも多くの学生が集まっているが、淡路島で就職し、卒業後も引き続き島内に留まるケースにつながっている。</p>
<p>山内 交流渦潮室長</p>	<p>④ 「淡路島総合観光戦略（2023～2027 年度）について」</p> <p>淡路島の観光産業の更なる発展と、観光振興を通じて地域住民の豊かな暮らしが将来にわたって持続できる淡路島の実現に向け、今後 5 年間の観光戦略を策定。SDGs の推進やコロナ禍の影響などの環境の変化の中、ビジョンを「いのち輝く島～個性が輝き続ける未来島～」とおき、サステナブルな観光地域づくりを目指していく。</p>

<p>長尾 代表取締役 ((株)スマイルあ わじ)</p>	<p><b>(6) 意見交換</b></p> <p>地域の脱炭素の取り組み、エネルギー自給率の計算方法について。ここで発表されているものは大半がFIT（フィット）電源（＝再生可能エネルギーによって発電され、固定価格買取制度によって買い取られた電気）で、昨年度増えているのもほとんどがFIT電源によるものだと思われる。一般企業における脱炭素の計算では、FIT電源は計算に入れないこととなっている。淡路島でも発電所の建設が増えてきているが、FIT電源を入れての計算に違和感があるので、お答えいただきたい。</p>
<p>広域調整課</p>	<p>FIT電源で算出をしている。</p>
<p>長尾 代表取締役 ((株)スマイルあ わじ)</p>	<p>その算出方法でも妥当なのか。今は国でもNon-FIT電源の開発を進めている。地域内で電力も地産地消し、資金も地域内で還元させるのが本来の持続可能な地域づくりではないかと思うが。</p>
<p>広域調整課</p>	<p>未来島構想が始まった時点からの継続性という面もあり、当初からFIT電源を入れた計算としているため、引き続き同様の算出方法にしているが、今後の検討事項とさせていただきたい。</p>
<p>長尾 代表取締役 ((株)スマイルあ わじ)</p>	<p>Non-FIT電源の用地も淡路島外の購入者が多いのも課題である。島内の土地が地域外企業に購入され、電力も地域外に流れている。そういったことも踏まえて淡路島の地域づくりを考えていくことを皆様にもご認識いただきたい。</p>
<p>木村 元委員長 (第3期・第4期淡 路地域ビジョン委 員会)</p>	<p>太陽光発電はすごく効果が上がっているのはわかるが、一方で、太陽光発電パネルの下の、淡路島の土地が死んでしまっていると感じる。今後の建設にあたっては、発電パネルのその下も活かせるよう考えていただきたい。今のままでは、発電パネルがなくなるとき草が一本も生えない土地になってしまうのではないか。</p> <p>また、淡路島総合観光戦略の基本的理念に「いのち輝く島」「個性が輝き続ける未来島」とあるが、国生み神話の「よみがえりの島」というテーマのもと、淡路島の素晴らしい自然環境や美味しい食材で元気になってもらい、歴史文化に触れ、いろいろな人とのふれあいのなかで、もっと元気になれるということをアピールしていくことで新たな魅力が生まれるのでは。できれば、国生み神話による、よみがえりの島という淡路島の魅力をさらに発信していただきたい。</p>

<p>岡田 会長        (「環境立島淡路」島        民会議 あわじ菜の        花エコプロジェクト        推進部会)</p>	<p>あわじ菜の花エコプロジェクトに携わっている。このプロジェクトは、1998年に始まり、2000年の花博の後、淡路島をどうやって持続可能な島にしていくのかというテーマから提案をしたプロジェクト。今、菜の花エコプロジェクトが課題に直面している。菜種の収穫時、適切なタイミングで刈り取らないと良い種子が下へ落ちてしまうが、コンバインの台数が足りず、せっかく植えているのに十分な収穫ができない。機械の運搬や操作オペレーター等の費用を全て依頼元の農家が負担して頑張っているが、高齢化等でそのあとの人材づくりにつながっていかない。農家が次この人に託せると言えるようでない、我々の思い描く持続可能な島とはいえないのではないかと。搾油もただ機械を導入すればいいのではなく、焙煎するマイスターも技術を身につけないといけない。ひとつのプロジェクトをするには人材育成が不可欠だと感じる。</p> <p>また、以前は高速バスの乗車券が運営会社によっては利用できず、バスに乗せてもらえない人もいたが、今は使えるようになっているとのこと。その点をもっとPRしてほしい。</p> <p>環境教育について、近畿 ESD (=Education for Sustainable Development、持続可能な社会の創り手を育む教育) フォーラムをオンラインでずっとしていたが、教育課程の変化に現場の先生方が対応できていないので、集まって勉強会をした。今の子どもたちが一番地球温暖化の影響を受けるところで社会人になるので、今生きている我々には責任がある。そのような発想で、ESD for 2030 パートナリシップを吉備国際大での取り組みや子どもたちのカリキュラムにも取り入れて展開していただきたい。</p> <p>また、淡路島総合観光戦略の中にアワイチ (=淡路島一周サイクリング) も加えてほしい。滋賀県ではビワイチ (=琵琶湖一周) 専用の自転車道路がある。大鳴門橋も自転車が通行できるようになり、セトイチ (瀬戸内一周) にもつながるので、安心してまわれるよう淡路島でも自転車道の整備をしてほしい。もっと配慮をした形で、アワイチ及び淡路島総合観光戦略を進めてほしい。</p>
<p>守本        兵庫県企画部長</p>	<p><b>3 閉会</b>        (閉会あいさつ)</p> <p>未来島構想はスタートから約10年が経った。2015年には国連でSDGsが全会一致で採択され、世界中で持続可能な社会を作っていくという動きが生まれている。昨年来のウクライナ情勢により農やエネルギー持続の課題の重要性が一層浮き彫りになっていることも鑑み、未来島構想も10年を経てますます重要になっている。</p> <p>本日、活発な活動報告をいただき、大変心強く思う。これからも構想の実現に向けて皆様と歩み続けていきたい。</p>